

—発表資料—

2026年2月5日
26-06号

サプライチェーンマネジメント(SCM)高度化戦略で物流効率※改善に貢献 ～収益力の強靭化に向け、販売から物流まで一貫したSCM管理の実現～

ライオン株式会社(代表取締役兼社長執行役員:竹森 征之)は中長期経営戦略「Vision2030」の実現に向けた取り組みの一環として、サプライチェーンマネジメント(以下、SCM)の抜本的な改革に取り組んでいます。当社は、販売計画から物流計画までをオペレーションレベルから最長3年先の戦略レベルまでDXを活用してシームレスに連携させる仕組みを構築し、2025年から本格稼働を開始しました。これにより、需要・供給の変動を先取りして即応する「先行対応型SCM」への転換を実現しています。

これらの取り組みにより、2025年度は「Vision2030 1st STAGE」(2022-2024)の平均に対して平均在庫回転日数11%削減、品切れ件数50%削減、物流効率※9%向上する成果をあげました。

「Vision2030 2nd STAGE」(2025-2027)では、全社ROICへの貢献を目指しています。

※ 1つの製品が消費者に届けられるまでの車両台数や作業回数のこと

■ 背景と目的

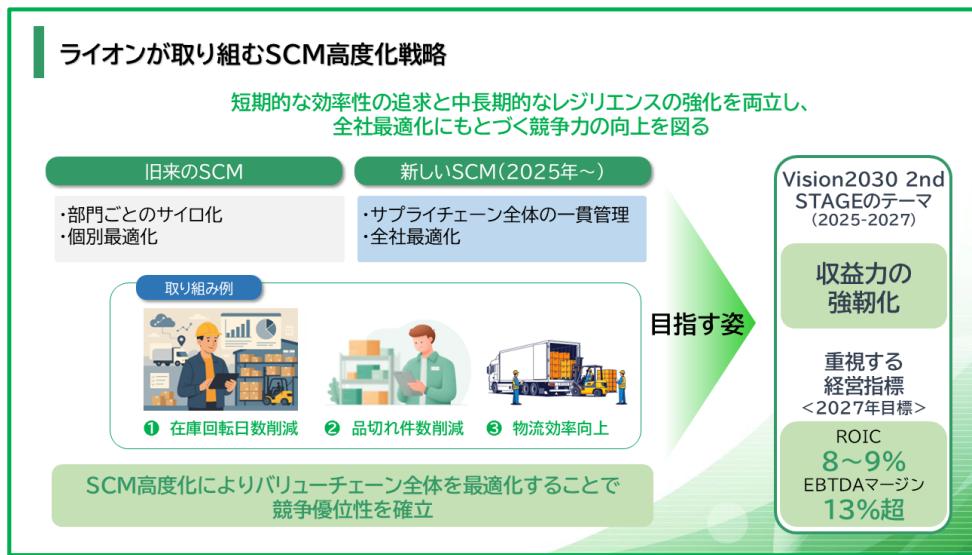


図1 ライオンのSCM高度化戦略概要

近年、原材料価格の高騰、物流費の上昇、地政学リスクの顕在化、気候変動に伴う自然災害の増加など、サプライチェーンを取り巻く環境は一段と複雑化し、不確実性が高まっています。こうした状況下で、当社は「お客様への安定的な製品供給」という社会的使命を果たしつつ、持続的な事業成長に向けて収益性とキャッシュフローの一層の強化を目指しています。

そこで当社は、昨年スタートした中期経営計画「Vision2030 2nd STAGE」で掲げる“収益力の強靭化”を支えるSCM基盤の確立を目指し、部門ごとのサイロ化・個別最適に偏りがちであった従来型のSCMから脱却する取り組みを始めています。サービスレベルの向上、コストの最適化、キャッシュフローの改善、リスクの低減という4要素を全社横断で統合的にマネジメントするため、販売計画から物流計画までをDXを活用して一貫管理するSCM基盤と体制を新たに構築しました。これにより、短期的な効率性の追求と中長期的なレジリエンスの強化を両立し、全社最適化に基づく競争力の一層の向上を図つてまいります。

■ 「Vision2030 2nd STAGE」終了時(2027年)に向けた国内の目標と現状

比較対象：1st STAGE(2022-2024)の平均

目標項目	2nd STAGE終了時(2027年)の目標	2025年度の結果
平均在庫回転日数	23%削減	11%削減
品切れ件数	2025年水準を維持	50%削減
物流効率*	15%向上	9%向上

■ 具体的な取り組み内容

1. KPIマネジメント高度化

SCMにおけるKPIをサービス・コスト・キャッシュ・リスクの4つの視点で再設計を行い、日次モニタリングするSCMコントロールタワーを構築しました。これにより、基準に基づくアラート検知や要因把握の精度が向上し、部門横断での迅速な意思決定が可能となりました。

2. 需要予測高度利活用

社内の各種実績データ・計画データに加え、製品特性に応じた外部データも組み込み需要予測モデルを構築しました。これにより、日々の変化を先読みした迅速な供給調整と、中長期の計画精度向上を実現しました。

3. What-if分析によるシナリオプランニング

サプライチェーンプランニングツールを導入し、複数シナリオのWhat-if分析を実施することで、意思決定の精度向上、及び需要・供給変化時の計画適正化スピードの向上を実現しました。

4. 物流リソースマネジメント

短期～中長期の需要計画から物流計画までを一貫管理することで、需要計画と連動した物流リソースの最適配分と、需要・供給変化時の機動的な見直しを実現させるサプライチェーンのE2E一元管理により、物流効率*を大幅に改善しました。

【関連情報】

・ニュースリリース(2025年10月15日公開)

[ライオン、Google Cloud でデータドリブン経営を加速 ～SAPデータをリアルタイム活用する全社データ基盤を内製、AI による需給予測も視野に～](#)

以 上

お問い合わせ窓口

ライオン株式会社 〒111-8644 東京都台東区蔵前1-3-28
<報道関係の方> 広報部 03-6739-3443